



2021年7月20日

日本鉄道労働組合連合会

JR九州労組第30回定期大会

組織の総力で難局を乗り越え、明るい未来を創る

JR九州労組は7月16日、北九州市内において第30回定期大会を開催した。代議員、特別代議員ら総勢約100名出席のもと、スローガンに「協働・創造・前進」を掲げ、2021年度の運動方針を満場一致で決定した。JR連合からは荻山市長、政所大祐事務局長、連合福岡の藤田桂三会長、JR九州労組議員団会議団長の松尾哲也・大牟田市議、及び遠田孝一・苅田町長（本年10月の町長選挙で2期目に挑戦）らが来賓として出席した。

冒頭の挨拶で中原博徳中央執行委員長（JR連合副会長）は「安全の確立」「政策課題の解決」「組織の強化・拡大」の3点に触れ、コロナ禍で不安を抱える組合員に寄り添い、不安の解消に向けて強固な組織運営を推進し、JR連合ビジョンを着実に実践していく決意を述べた。



また、来賓として挨拶に立った荻山会長は、サービス連合・航空連合との3産別共同による要請行動や新たな政策提言「将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方」に触れるとともに、「JR産業が持続的に成長し、社会的役割を果たすために、私たちは社会変化に対応しこの難局を乗り越えなければならない」と力強く訴えた。

議事では2021年度の運動方針等が提起され、21名の代議員、特別代議員から質疑を受け、芦原秀己書記長の総括答弁の後、すべての議案が可決された。また、役員改選では長年にわたりJR九州労組運動を牽引してきた中原中央執行委員長らが退任し、芦原中央執行委員長、木村智隆中央執行副委員長、北村公次中央執行副委員長、吉田祥司書記長を三役に選出し新たな役員体制を確立した。最後に、芦原中央執行委員長の「団結ガンバロー」で定期大会を締めくくった。

